

金網柵を設置をする際に見落とししがちなポイントをチェック!!

□ 設置ルートは点検・管理がしやすくなっていますか？

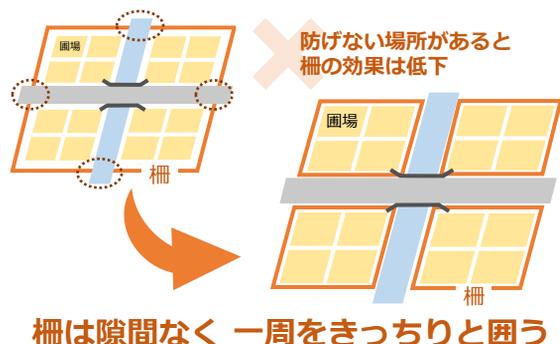
柵は設置して終わりではなく、その後の管理が重要です。急斜面や草木が生い茂っていて歩く場所を確保できない場所などでは作業がしにくくなります。将来的に点検や補修を継続しなければならないことを踏まえて柵のルートを検討してください。



□ 柵はきちんと一周を囲っていますか？

柵は隙間なく一周を囲んでいないと動物が入ってきます。扉を付けて出入りができるようにし、塞いでいない場所ができないようにしましょう。

また、広範囲をまとめて囲うと道路や河川によって開口部ができやすくなります。そのような場合は少数ずつ圃場を囲うなど、小さく囲うことも検討してみてください。



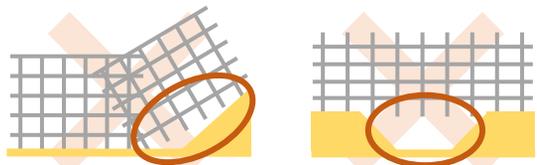
□ 斜面の近くでは柵が高さ不足になっていませんか？

斜面のすぐそばに柵を設置してしまうと、柵は高さ(2m以上)があっても斜面からは簡単に跳び込むことができる状態になってしまいます。斜面の近くに柵を設置する場合はかさ上げをするなど、工夫をするようにしましょう。



□ 柵に隙間ができていませんか？

斜面に設置された柵や、排水路の上を通る柵では下部に隙間が生じることが多いです。小さな隙間でも油断せず、しっかり防御しましょう。



⚠ シカやイノシシは小さな隙間も通れます

体格にも左右されますが、シカは横幅が17cmほどの隙間や縦幅が20~30cmの隙間を通過できる個体もいるそうです。

イノシシは縦幅が20cmの隙間を潜り抜けられるそうです。

小さな隙間でも油断せず、ふさぐようにしましょう。

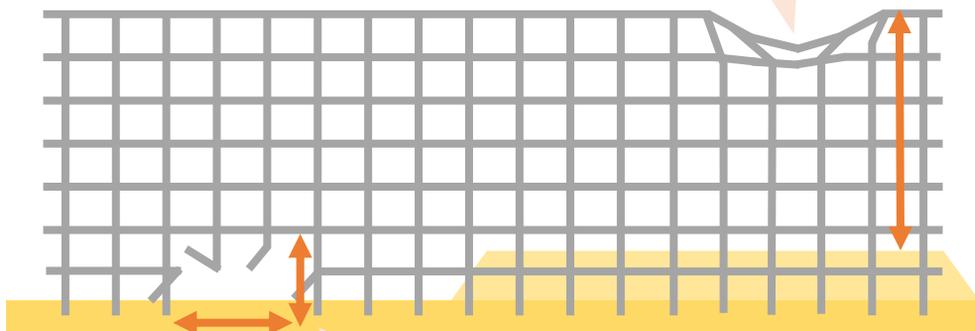


持続的な獣害の抑制のために こまめに点検を実施しましょう

点検ポイント 1

土砂の堆積や斜面などによる高さ不足（1.5m以下）や
跳び越えられた跡はありませんか？

※柵の高さは2.0m以上が望ましいですが、最低でも1.5mは確保するようにしてください



点検ポイント 2

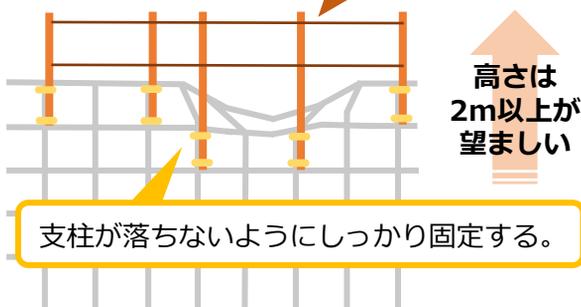
動物の侵入口となる隙間や破損はありませんか？

※裏面にも関連事項が記載されています、ぜひご確認ください

補修例 1：高さ不足の場合

高さ不足の箇所はかさ上げをしましょう。

支柱を立て、ロープや金属線を張る。
古くなった電気柵の線も活用可能。
軽量のメッシュ網などを張っても大丈夫です。

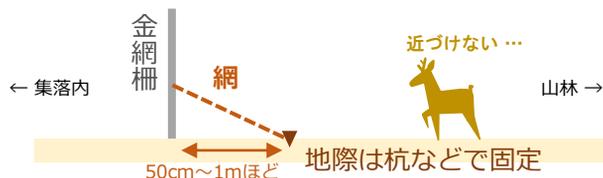


高さは
2m以上が
望ましい

支柱が落ちないようにしっかり固定する。

柵下部に斜めに網を張ることで対策可能

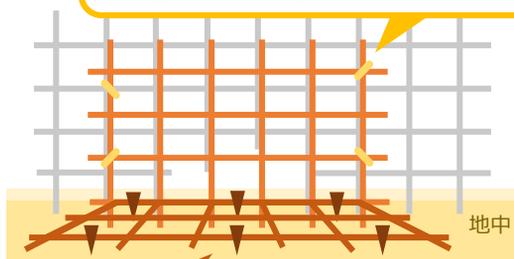
柵の山側が十分に広い平地であれば
網を斜めに張ってシカを接近させないように
して跳びにくくすることも可能です。
ただし、シカが網に慣れてしまうと
網を踏んで壊してしまうこともあります。



補修例 2：隙間や破損の場合

隙間や破損はワイヤーメッシュなどの
補修資材を使ってしっかりふさぎましょう。

金属の結束線や
ナイロンの結束バンドなどで
柵と補修資材をしっかり固定する。



アンカー杭を地面に打ち込むなどして簡単に
持ち上がらないようにする。掘り返さないよう
に柵に裾などを付けるのも効果的です。

⚠️ イノシシは60kgを持ち上げられるそうです

丸太などを障害物として
侵入口に置いただけでは
突破される可能性があります。
しっかりと固定しましょう。



柵の周りは雑草が繁茂しないように

点検がしやすいようにし、野生動物の警戒心を
上げるために、定期的な除草をお勧めします。
特に山林側の除草を定期的実施してください。